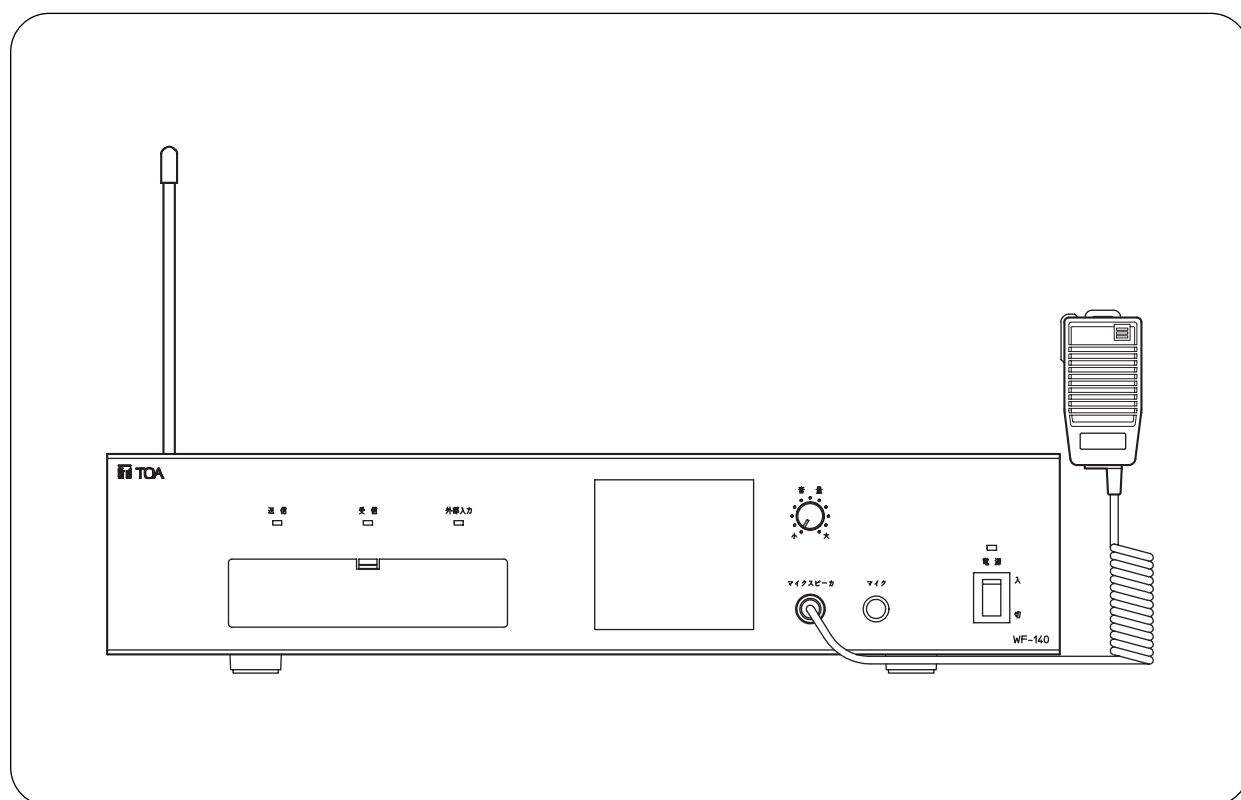


据置型中継機

WF-140



このたびは、TOA 据置型中継機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますよう
お願い申し上げます。

目 次

安全上のご注意	4
概要と特長	6
中継機能について	6
使用上のご注意	7
各部の名称とはたらき	
前 面	8
後 面	9
設置のしかた	
マイクスピーカの接続のしかた	10
アンテナの立てかた	10
設定のしかた	
カバーの外しかた	10
チャンネルの設定のしかた	11
トーンの設定のしかた	11
操作のしかた	
電源と音量の合わせかた	12
通話のしかた（送信・受信）	12
モニタについて	13
その他の機能	
ページングマイクロホン PM-660W	14
補助スピーカ出力	14
録音出力	14
リモートユニット WF-190	15
外部入力	16
送信・受信・外部入力の状態表示について	17
故障かなと思ったら	18
仕 様	19
付属品	19

安全上のご注意



警告

誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



注意

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。感電の原因となります。



接触禁止



注意

誤った取り扱いをしたとき、人が傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。



禁止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止

設置場所に注意

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



禁止

使用するとき

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

電源を入れる前には音量を最小に

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



注意

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

電源プラグやコンセント部の掃除を

電源プラグを差し込んでいるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。



注意

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

概要と特長

- 本機は、特定小電力無線局用に割り当てられた、400 MHz 帯の電波を使用した送信出力 10 mW の据置型中継機です。無線局免許が不要のため、すぐにご使用になれます。パチンコ店、スーパーマーケット、ディスカウントショップやレストランなどの従業員連絡用として最適です。
- 据置機や携帯機が送信した電波を受信して異なる周波数で送信する中継機能（ 下記）以外に、本機に接続されたマイクロホンや外部入力端子に接続された機器の音声を送信することができます。16 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択できます。
- 外部入力 は 2 系統あり、外部入力 1 は音声による起動または接点による起動、外部入力 2 は音声による起動が可能です。外部入力 2 には頭切れを防止する遅延機能が付いています。
- 本機はラックマウント（ラックマウント金具：別売）でき、リモートユニット（WF-190：別売）を 4 台まで接続できます。また、DC24 V での動作も可能なため、バックアップ電源として使用すれば停電時のシステムダウンを防ぐことができます。
- プレストークの交互通信方式なので、システム内の携帯機や据置機の台数に制限がありません。
- 静かに待ち受けできるトーン機能付きです。
トーン機能とは、待受時に他の無線からの混信を防ぐための機能です。相手側とは送受信周波数とトーンが一致したときに通話できます。トーンは、「トーンなし」を含め 16 種類の中から選択できます。
- 外部スピーカを接続できる補助スピーカ出力端子（受信の音声のみ）、通話の音声を録音できる録音出力端子（受信と送信の音声）、付属のマイクスピーカ以外のマイクロホン（PM-660W：別売）が使用できるマイク入力端子を装備しています。

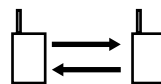
中継機能について

本機は中継機能を持っています。中継機がないシステムと中継機があるシステムでは、次のような違いがあります。

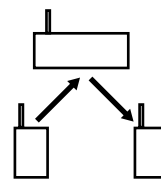
中継機がないシステムの場合は、据置機や携帯機から送信された電波を、据置機や他の携帯機で直接受信しています。

中継機があるシステムの場合は、据置機や携帯機から送信された電波は、中継機で異なる周波数に変換されて、再送信されます。他の携帯機で受信している電波は、この中継機から再送信された電波です。

● 中継機なし



● 中継機あり



ご注意

中継機があるシステムの場合は、携帯機や据置機間の距離が近くても、中継機に電波が届かないと通話することができません。中継機に電波が届かない所から、携帯機や据置機で送信しようとすると、中継機に電波が届いていないことを示す「ツーツー」音が鳴ります。（「ツーツー」音が鳴るのは、この場合以外に、他の電波が出ているときに送信しようとした場合です。）

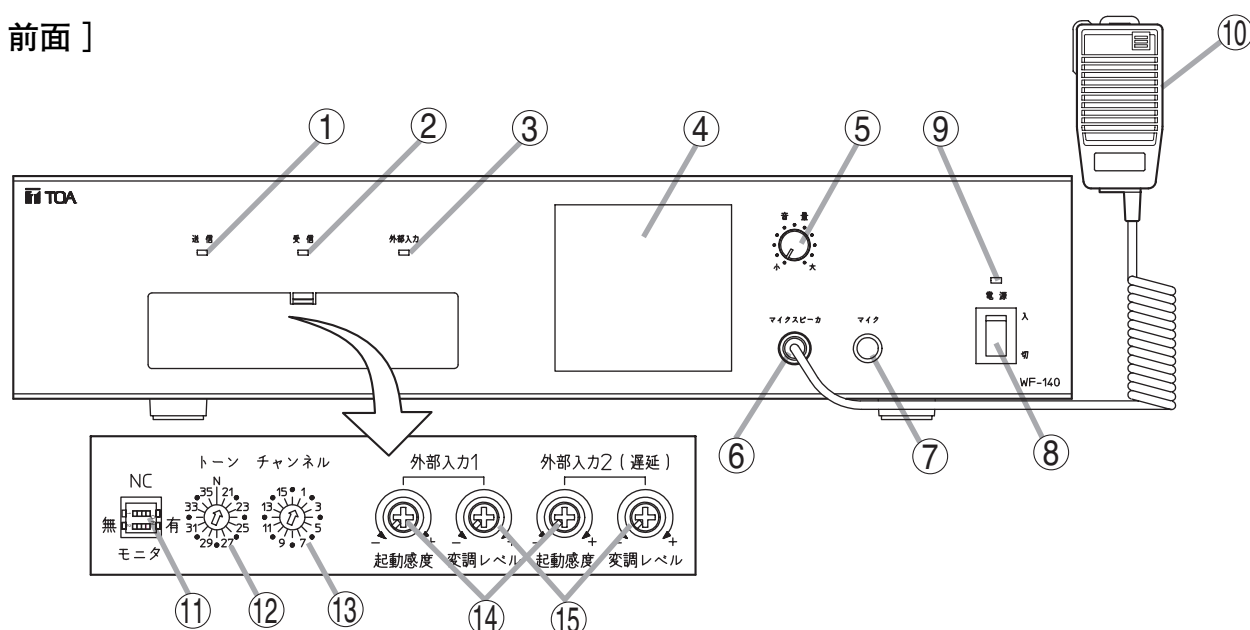
使用上のご注意

本機をご使用になる前に必ずご一読ください。

- ご使用いただく電源は、AC100 V または DC24 V です。ご使用後は必ず電源を切ってください。
- 本機の分解、改造およびアンテナの付け換えは、電波法で禁止されています。絶対にしないでください。
- パソコン、ファクシミリ、コピー機、自動販売機などの、コンピュータを使用している機器から強い高周波雑音が出ている場合があります。これらの機器からできるだけ離してご使用ください。
- 本機の後面に貼り付けている証明ラベルは絶対にはがさないでください。
証明ラベルをはがすと、電波法による技術基準適合証明の効力を失い、使用できなくなります。
- テレビ、ラジオ、その他の公共通信などに雑音が入ったり混信が生じたときなどは、本機の使用を中止してください。放送局や無線局の近くでは、混信したり、音声が途切れる恐れがあります。注意してご使用ください。
- アンテナは必ず垂直に立ててください。アンテナをまっすぐに立てていないと、正しく通話ができないことがあります。
- ケースの汚れは乾いた布で軽くふいてください。ベンジン、シンナーなどは絶対に使用しないでください。
- 本機の周囲に金属物など電波をさえぎるものを置かないでください。正しく通話ができないことがあります。
- 湿気、ほこりや振動の多い所では使用しないでください。故障の原因となります。

各部の名称とはたらき

[前面]



1. 送信ランプ

送信時は赤色に点灯します。

2. 受信ランプ

受信時は黄色に点灯します。

(トーンが異なるときは約0.5秒ごとの点滅をします。)

3. 外部入力ランプ

外部入力のレベルに合わせて消灯、黄色点灯、赤点灯になります。黄色点灯時が適正な入力レベルです。赤点灯では過大な入力レベルで音が歪みますので、入力レベルを下げてください。

(P. 16 と P. 17)

4. スピーカ

相手の音声聞こえます。

5. 音量つまみ

10. マイクスピーカ

側面にある送信スイッチを押して話します。話し終わったら送信スイッチを離します。(P. 12 「通話のしかた」)

※ マイクスピーカに内蔵のスピーカからも相手の音声聞こえます。

11. モニタスイッチ

モニタ機能を「有 (ON)」または「無 (OFF)」に切り換えるスイッチです。電波の使用状況を確認するときなどに使用します。(P. 13)

12. トーンスイッチ

トーンを切り換えるスイッチです。

同一チャンネルを使用していても、同一のトーンに設定した相手とだけ通話が行えます。トーンの異なる相手の通話は聞こえないので、静かに待ち受けできます。(P. 11)

13. チャンネルスイッチ

チャンネルを切り換えるスイッチです。

混信するときはチャンネルを切り換えてください。(P. 11)

14. 起動感度つまみ

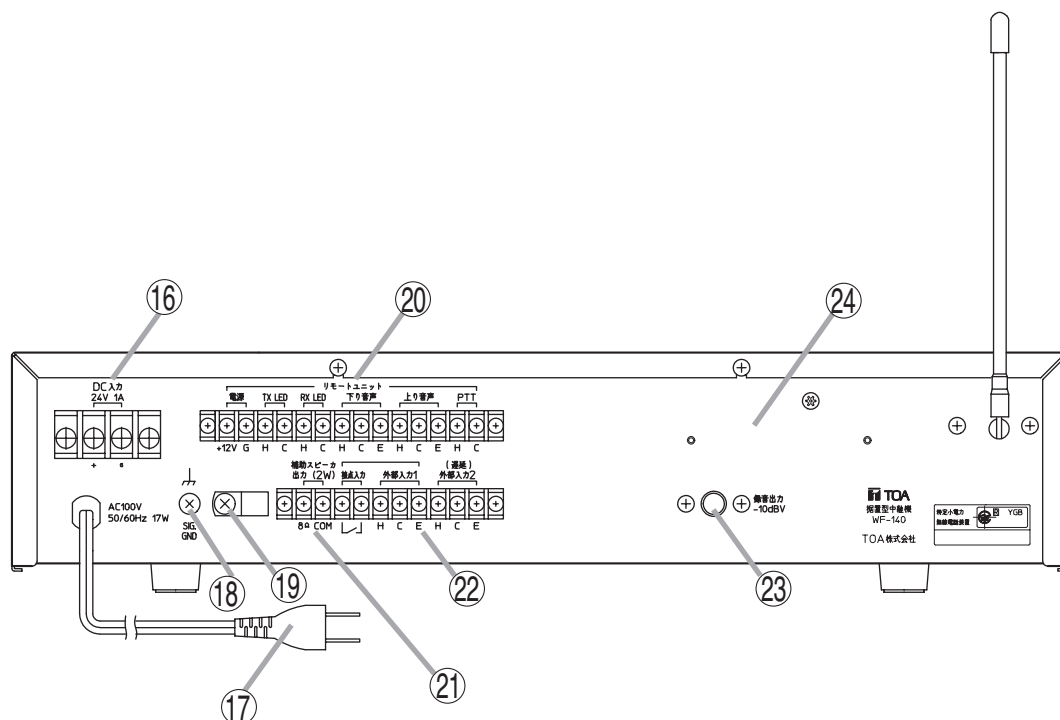
外部入力の音声で起動させる場合の感度を調節します。外部入力1、外部入力2にそれぞれ個別に設定します。(P. 16)

15. 変調レベルつまみ

外部入力の 변調レベルを調節します。外部入力1、外部入力2にそれぞれ個別に設定します。外部入力を使用しない場合はそれぞれのつまみを反時計方向いっぱい回しておきます。

(P. 16)

[後面]



16. DC 入力端子

直流で動作させるときに使用します。
DC24 V、1 A。

17. 電源コード

18. アース端子

19. ケーブル固定

端子に接続するケーブルをナイロクランプを使用して固定します。ナイロクランプは3種類あります。接続するケーブルの外形に合わせて選んでください。

20. リモートユニット端子

リモートユニット（WF-190：別売）を使用するときに、リモートユニットを接続する端子です。（ P. 15）

21. 補助スピーカ出力端子

外部スピーカ（8 Ω、2 W）を接続できます。（ P. 14）

22. 外部入力端子

外部機器の音声を送信したいときに、外部機器を接続する端子です。外部入力には、外部入力1、外部入力2の2系統あり、外部入力1、外部入力2とも音声で起動できます。外部入力2は、頭切れ防止のための遅延回路を搭載しています。外部入力1は接点で起動（メークで送信）をかけることもできます。外部入力1、外部入力2の入力レベルは-30 dBV～-10 dBV（入力インピーダンス2 kΩ）の範囲です。（ P. 16）

23. 録音出力端子

ピンジャック、-10 dBV、不平衡、600 Ω。
通話の音声出力されます。

ビデオなどの音声入力端子に接続することにより通話を録音できます。（ P. 14）

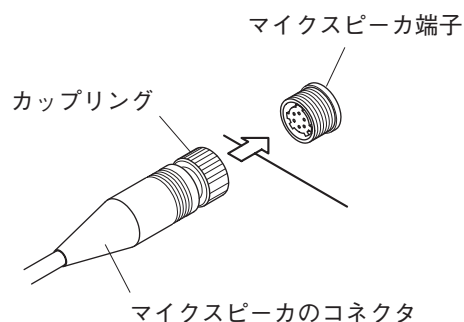
24. アンテナ

垂直に立てて使用します。

設置のしかた

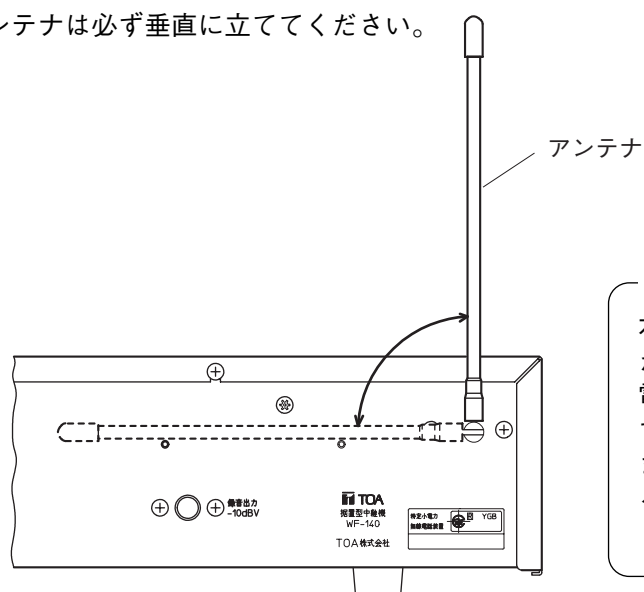
■ マイクスピーカの接続のしかた

マイクスピーカのコネクタを前面パネルのマイクスピーカ端子に差し込み、カップリングを回して固定してください。



■ アンテナの立てかた

アンテナは必ず垂直に立ててください。



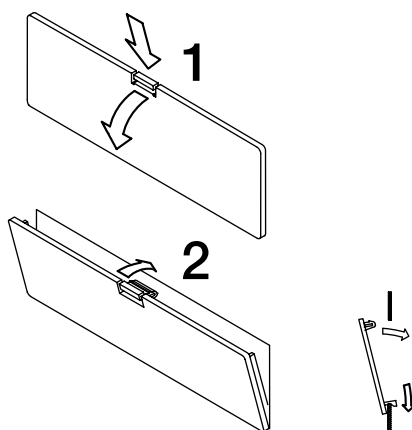
ご注意

本機の周囲に金属物など電波をさえぎるものを置かないでください。
電波が届かず、不安定な通信になることがあります。
また、アンテナの周囲 10 cm 以内に金属物があると、アンテナの特性が出ず極端に通話範囲が狭くなる場合があります。

設定のしかた

■ カバーの外しかた

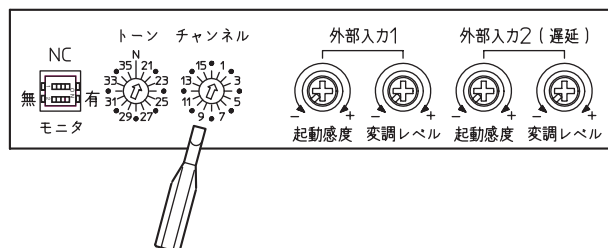
1. 前面のカバーを外します。カバーのつめを下に押しながら外します。
2. 設定が終了すれば、カバーを元どおりにします。ケースにつめ部分を合わせてから、はめ込みます。



■ チャンネルの設定のしかた

チャンネルスイッチの矢印を付属のドライバで設定したいチャンネル（1～16）に合わせます。（出荷時はチャンネル1に設定されています。）

※ 他で使われていないチャンネルに設定してください。チャンネルが使われているかどうかはモニタスイッチを「有（ON）」にしてチェックします。（ P. 13）



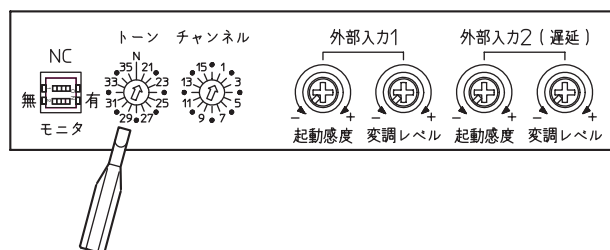
メモ

電源を入れたままでもチャンネルの設定が行えます。

パソコン、ファクシミリ、コピー機、自動販売機などの、コンピュータを使用している機器から強い妨害電波が出ている場合があります。この場合、受信ランプが点滅することがあります。また、送信しようとする、スピーカから「ツーツー」音が鳴ったりすることがあります。妨害電波を出している機器から離すか、チャンネルを変更してください。

■ トーンの設定のしかた

トーンスイッチの矢印を付属のドライバで設定したいトーン（21～35）に合わせます。（出荷時はトーン21に設定されています。）



ご注意

- 電源を入れたままでもトーンの設定が行えます。
- トーンの設定が異なるときは、同一チャンネルの電波を受信しても相手の音声は聞こえません。このとき、受信ランプは約0.5秒ごとの黄色の点滅をします。
- トーンなし（矢印が「N」の位置）に設定すると、同じチャンネルを使用している人の音声は、相手がトーンを設定していても聞こえます。また、受信時（相手の送信終了時）に「ボツ」というノイズが混じることがあります。

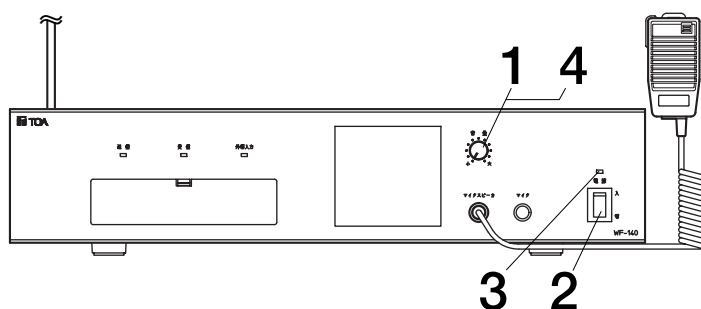
操作のしかた

ご注意

- 電源を入れる前に付属のマイクスピーカを接続してください。
- チャンネルとトーン（トーンを設定しているとき）が通話したい相手と合っていることを確認してください。

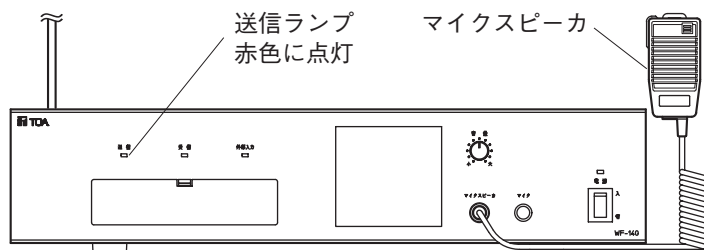
■ 電源と音量の合わせかた

1. 音量つまみを「小」に合わせます。
2. 電源を入れます。
3. 電源ランプが緑色に点灯します。
4. 通話の音声を聞きながら、音量つまみを回し、適当な音量に調節します。



■ 通話のしかた（送信・受信）

1. マイクスピーカの側面についている送信スイッチを押します。
2. 「ピッ」という音とともに、送信ランプが赤色に点灯し、送信状態になります。



3. マイクスピーカに向かって話してください。

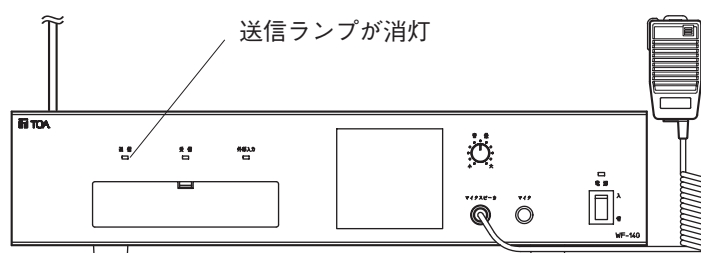
押しながら話をする



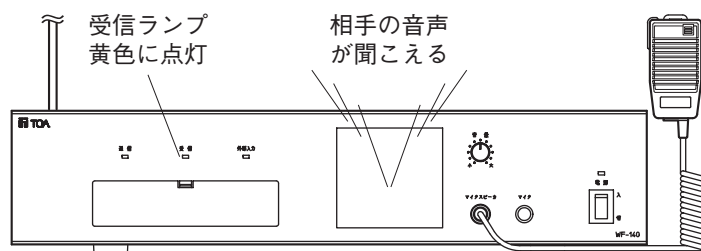
4. 話し終わったら、送信スイッチを離してください。



5. 「ピッ」という音とともに、送信ランプが消灯し、待受状態になります。



6. 受信すると、受信ランプが黄色に点灯し、スピーカから相手の音声聞こえてきます。



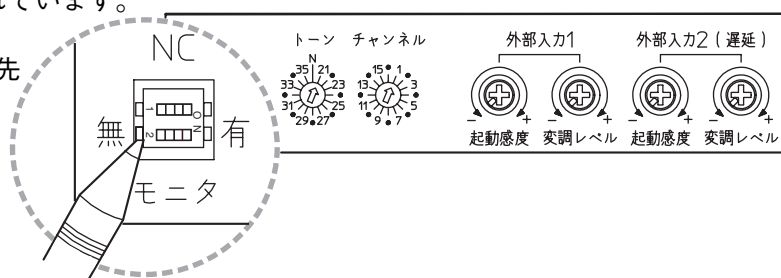
ご注意

- 機器が送信状態になった直後は、一呼吸おいてから話してください。すぐ話し始めると音声のはじめの部分が欠けます。
- 連続して通話できる時間は、送信受信を行ってから3分間です。通話時間が3分になったとき、自動的に終話となります。この後2秒間は送信できません。(通信積算時間制御機能)
- 送信スイッチを押しても、「ツー、ツー」と警告音が鳴り、送信できないことがあります。中継機でこの症状になるのは、使用しているチャンネルにシステム以外の電波が受信されているときです。この場合、妨害電波があるか、近くで同じチャンネルを使用している可能性がありますので、チャンネルを変更してください。
- システム以外の電波（異なるトーンの電波）を受信すると、受信ランプが約0.5秒ごとの黄色の点滅に変わります。この場合、妨害電波があるか、近くで同じチャンネルを使用している可能性がありますので、チャンネルを変更してください。

■ モニタについて

モニタ「有（ON）」に設定すると、電波の有無にかかわらず受信状態になります。このときトーンスイッチの設定は無効です。近くで同じチャンネル（周波数）が使われているかどうかをチェックできます。出荷時にはモニタ「無（OFF）」に設定されています。

モニタスイッチを図のようにボールペンの先などで設定してください。



注意

モニタスイッチを「有」にするときは、音量つまみを反時計方向に絞ってください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

その他の機能

■ ページングマイクロホン PM-660W

前面のマイク入力端子に接続してください。
プレストークスイッチが送信スイッチになります。



ご注意

付属のマイクスピーカとページングマイクロホン PM-660W を両方接続していても、ご使用いただけません。送信スイッチを押した方のマイクロホンの声が送信されます。

■ 補助スピーカ出力

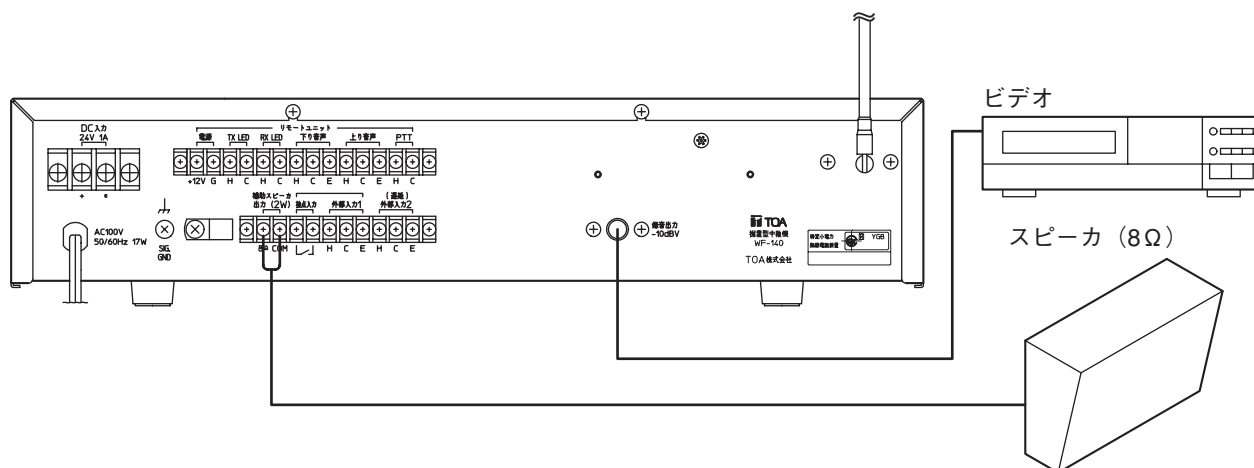
騒音が激しくて、本機内蔵のスピーカでは聞きにくいときや離れた所でモニタするときは、補助スピーカ出力端子（2 W）にスピーカを接続してください。

下図のように本機後面のねじターミナルにスピーカの線を接続します。

スピーカはインピーダンスが8 Ωで、定格入力が2 W以上のものを使用してください。

■ 録音出力

ビデオなどに接続することにより、通話（送信および受信の音声）を録音することができます。
カメラなどと併用することにより、映像と音で正確な状況把握を可能にします。



■ リモートユニット WF-190

リモートユニット（WF-190：別売）を接続するとリモートユニットから据置機や携帯機と通話することができます。リモートユニットは4台まで接続できます。リモートユニットから送信する音声は、据置型中継機や他のリモートユニットで聞くことができます。

● 接続のしかた

- リモートユニットと同じ端子名称のところに、極性（H、C）に注意して接続します。

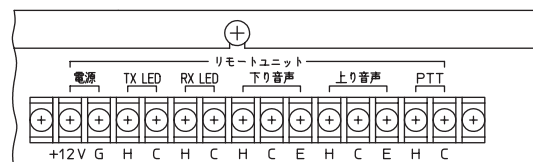
音声信号は平衡型です。雑音の影響を受ける場合は、シールドされたケーブルを使用してください。シールドラインは、「E」に接続します。リモートユニットではシールド線は接続しません。

- リモートユニットを2台以上使用の場合は、並列に接続します。

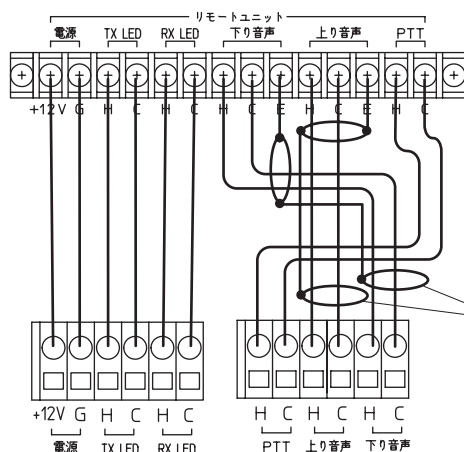
リモートユニットの電源は1台目は中継機から供給、2台目以降は電源（「+12V」、「G」）を接続せずにリモートユニットにACアダプタを接続してください。

- リモートユニット側の接続や操作のしかたは、リモートユニットの取扱説明書をお読みください。

リモートユニット端子



本機 リモートユニット端子



シールド線を使用するときは、リモートユニット側ではシールド線を接続しません。（ビニールテープなどで絶縁してください。）

リモートユニット側

ご注意

- 接続に使用できるケーブルは、中継機から電源を供給する場合は6ペア以上、供給しない場合は5ペア以上で、仕上がり外形が直径12 mm以下のものです。仕上がり外形が12 mmを超えるとリモートユニット側でケーブルが通らなくなります。
- 中継機とリモートユニット間のケーブルの最大延長距離は次のようになります。
 中継機から電源を供給しない場合：最大延長距離は300 m
 中継機から電源を供給する場合：ループ抵抗が6 Ω以下（φ 0.65 mmの場合50 m）
- 中継機からリモートユニットの1台目の電源は供給できますが、ループ抵抗が6 Ωを超える場合は1台目もACアダプタを使用してください。

■ 外部入力

外部機器を接続して音声を送信することができます。外部入力には、外部入力1、外部入力2の2系統あり、外部入力1、外部入力2とも音声で起動できます。外部入力1は接点で起動（メークで送信）をかけることが可能です。外部入力2は、頭切れ防止のための遅延回路を搭載しています。外部入力1、外部入力2の入力レベルは-30 dBV ~ -10 dBV の範囲です

外部入力1 音声起動または接点起動、遅延回路なし

外部入力2 音声起動、遅延回路あり

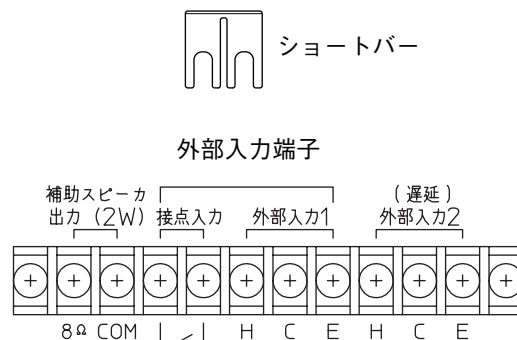
調節のしかたは、接続→変調レベルの調節→起動レベルの順で行ってください。

● 接続のしかた

平衡型で接続するときは、「C」～「E」間のショートバーを外して、「H」と「C」に信号ラインを接続します。雑音の影響を受ける場合は、シールドされたケーブルを使用してください。シールドラインは、「E」に接続します。

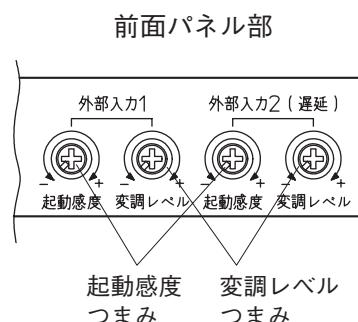
不平衡型で接続するときは、「C」～「E」間のショートバーを付けたまま、「H」に信号ラインのホットを、「C」に信号ラインのコールド側を接続します。

接点で起動するときは、接点入力に外部機器の接点出力ラインを接続します。



● 変調レベルの調節のしかた

外部入力のレベルを変調レベルつまみで調節します。外部入力1、外部入力2にそれぞれ個別に設定します。外部入力ランプを見ながら、ゆっくりとつまみを回して調節してください。外部入力ランプは、外部入力のレベルに合わせて消灯、黄色点灯、赤点灯になります。黄色が点灯する位置に設定します。最良の調節は、赤点灯しない範囲で時計方向にできるだけ回した位置です。外部入力を使用しない場合はそれぞれのつまみを反時計方向いっぱいに回しておきます。



● 起動感度の調節のしかた

外部入力の音声で起動させる場合に、起動感度つまみで調節します。外部入力1、外部入力2にそれぞれ個別に設定します。音声起動を行う場合は、通常、時計方向いっぱいに回しておき、雑音で誤動作する場合は、音声がないときに送信ランプが点灯ないように、起動感度つまみを反時計方向に回して感度を落とすように調節します。また、外部入力1を接点で起動させる場合や、外部入力を使用しない場合は、それぞれのつまみを反時計方向いっぱいに回しておきます。

● ご注意

- 変調レベルを調節した後で、起動感度を調節してください。
- 外部入力2の変調レベルの調節は、つまみを回して外部入力ランプが反応するまでに約1秒かかりますので、特にゆっくり行ってください。
- 起動をかけてから、携帯機や据置機に音声出力されるまでに、最大で約1秒遅れる場合があります。
 - (1) 音声に1秒以上の前置信号（ポーンなど）がある場合は、外部入力1に接続してください。
 - (2) 前置信号がないときは、外部入力2に接続してください。音声で起動がかかったあと、音声を約1秒遅らせる回路が搭載されているため、頭切れが防止されます。
 - (3) 接点で起動をかける場合は外部入力1に接続し、音声の始まる1秒前に接点の起動をかけてください。
- 外部入力1の接点入力の仕様
メーク接点入力（メークで送信）、開放電圧：DC4 V、短絡電流：5 mA、ループ抵抗：100 Ω 以下

送信・受信・外部入力の状態表示について

送信ランプ、受信ランプ、および外部入力ランプは、本機の状態により下記のような表示をします。

送信ランプ	受信ランプ	外部入力ランプ	状態
消灯	消灯	消灯	待受状態
点灯	点灯	消灯	中継動作
点灯	消灯	消灯	マイクスピーカやリモートユニットの音声を送信
点灯	消灯	点灯 (黄色：適正) (赤：過大入力)	外部入力1や外部入力2の音声を送信 この状態で、マイクスピーカやリモートユニット送信する場合もこの表示になります。
消灯	点滅	消灯	トーン違いの電波を受信しているため、中継できない状態です。
消灯	点灯	消灯	トーンは同一ですが、通話設定ができない電波を受信しているため、中継できない状態です。

故障かなと思ったら

症状	点検項目	処置
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに正しく差し込んでください。
「ザー」という音が出る。	モニタスイッチ⑪が「有（ON）」のままになっていませんか？	モニタスイッチを「無（OFF）」にしてください。
送信できない。	電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに正しく差し込んでください。
	マイクスピーカ⑩のコネクタが正しく接続されていますか？	マイクスピーカのコネクタを正しく接続してください。
マイクスピーカやリモートユニットから送信できない。	該当機器の接続が正しくされていますか？	正しく接続してください。
マイクスピーカ、ページングマイク、リモートユニット、外部入力から、送信できない。中継機から「ツーツー」音が鳴っている。	中継機の送信ランプ①、受信ランプ②はどうなっていますか？（受信ランプ点灯または点滅、送信ランプが消灯になっていることを確認。）	モニタにより確認してください。（  P.13） 妨害電波のないチャンネルに変更してください。（  P.11）
外部入力から、送信できない。	外部接点から起動をかける場合は、外部入力1に音声ラインと接点出力が接続されていますか？ 接点がメークしていますか？	P. 16に従って、外部機器を正しく接続してください。
	音声起動をかける場合は、外部入力1、外部入力2の起動感度の調節がされていますか？	P. 16に従って、起動感度の調節をしてください。
外部入力から、送信できるが、音声小さい。 外部入力から、送信できるが、頭切れがする。	外部入力1、外部入力2の変調レベルの調節がされていますか？	P. 16に従って、変調レベルの調節をしてください。
	外部入力1、外部入力2とも音声で起動できますが、頭切れ防止の遅延回路を搭載しているのは、外部入力2のみです。外部入力2に接続されていますか？	P. 16に従って、外部入力2に接続してください。
携帯機から、他の携帯機を呼んでも、中継動作しない。	中継機の受信ランプ②が消灯していますか？	携帯機の電波が届いていません。チャンネルの設定がされていない可能性があります。中継機、携帯機のチャンネル設定をしてください。
	中継機の受信ランプが点灯、送信ランプ①が消灯していますか？	モニタにより確認してください。（  P. 13） 妨害電波のないチャンネルに変更してください。（  P. 11）
	中継機の受信ランプが点滅、送信ランプが消灯していますか？	トーン設定が一致していません。トーンを合わせてください。（  P. 11）
通話が途切れる。	携帯機または据置機との距離が離れ過ぎていませんか？	携帯機または据置機のアンテナの見える位置に移動してください。

仕 様

電 源	AC100 V、50/60 Hz または DC24 V
消 費 電 力 / 電 流	17 W (AC 動作時)、1 A (DC 動作時)
無 線 局 の 種 類	特定小電力無線局無線電話用無線設備
送 信 方 式	半複信 (PRESS TO TALK : プレストーク)
電 波 型 式	F3E
周 波 数	送信 : 421.5750 MHz (CH1) ~ 421.7625 MHz (CH16) 12.5 kHz 間隔、16 チャンネル 受信 : 440.0250 MHz (CH1) ~ 440.2125 MHz (CH16) 12.5 kHz 間隔、16 チャンネル
トーンスケルチ周波数	136.5 Hz (トーン 21) ~ 225.7 Hz (トーン 35) の 15 トーンとトーンスケルチなし
受 信 感 度	-4 dB μ VEMF 以下 (12 dB SINAD 感度)
ス ケ ル チ 感 度	-6 dB μ VEMF 以下
送 信 出 力	10 mW
機 能	キャリアセンス機能、通信積算時間制御機能 (連続通話時間 3 分)
使 用 温 度 範 囲	-10 ~ +40 °C
マ イ ク 入 力	-58 dBV、2 k Ω 、3 極ホーンジャック (コールド端子 ~ GND 端子間がメーク時に送信)
補 助 ス ピ ー カ 出 力	8 Ω 、2 W
録 音 用 出 力	-10 dBV (送信および受信の音声を出力)、不平衡、600 Ω 、ピンジャック
外 部 入 力	-30 ~ -10 dBV、トランス平衡 (遅延なし、あり)、2 k Ω
外 部 接 点 入 力	メーク接点、開放電圧 : DC4 V、短絡電流 : 5 mA、: ループ抵抗 : 100 Ω 以下
仕 上 げ	パネル : アルミ、黒 (マンセル N1.0 近似色)、3 分艶、塗装 ケース : プレコート鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、3 分艶
寸 法	420 (幅) $\times$ 96.6 (高さ) $\times$ 300.9 (奥行) mm (突起部含む)
質 量	5.6 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

マイクスピーカ	 1
設定用ドライバ	 1
ナイロンプランプ (小) *	 1
ナイロンプランプ (中)	 1
ナイロンプランプ (大)	 1

* 実装済みです。



TOA お客様相談センター	
商品の内容・組み合わせ・取り扱い方法や修理に関するご相談にお応えします。	フリーダイヤル 0120-108-117
受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日、祝日除く)	ナビダイヤル 0570-064-475 (有料)
	FAX 0570-017-108 (有料)
	※ PHS、IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

133-07-177-1A